

気仙沼市でボランティア活動

実施期日

平成27年11月21日

平成27年11月22日付 北鹿新聞掲載

大館市の交流事業

被災地に元気届ける

中高生ら 菓子作りなど楽しむ 気仙沼訪問

家庭教育分野で東日本大震災の被災地と相互交流を図る、大館市の「ふるさと元気づくりパワーアップ事業」で、中高生や子育てサポーターら29人が21日、宮城県気仙沼市を訪れ、お菓子作りやゲームを通して現地の子どもらと楽しく交流した。



かまぶく作りに挑戦する参加者たち（宮城県気仙沼市小泉公民館）

市は24年度から被災地と交流を図っている。本年度は家庭教育推進事業「おしゃべりひろびろだまり」と「子どもハロワーク」の出前活動として実施。全4回の訪問予定のうち3回目。大館市南中学校の3年生2人、大館高校生活科学科2年生6人、看護福祉大生4人などが訪問した。この日訪問した「小泉公民館」は震災の津波により流失した。23年9月から近隣にある小泉中学校の体育館2階を仮事務所として業務を行ってきたが、今年7月に小泉小学校敷地内に新公民館が建築された。小泉公民館として大館との交流は2年目。齋藤修館長は「大館から中高生に足を運んでもらいうれしい。楽しみに待っていた子どももい

る」とした。

小泉地区の小学生や保護者など7人が参加。子どもたちは大館の中学生らと「じゃんけん列車」など交流ゲームを満喫。大館高校生徒とは郷土菓子・かまぶくを一緒に作った。松ぼっくりにビーズなどを飾り付ける小物作りや、大人を対象に子育てサポーターがハンドトリートメント、読み聞かせや手遊びなども楽しんだ。

初めて被災地を訪れたという南中の虻川祐哉さん、石戸谷真夢さんは「震災後の風景、子どもたちとの関わりなどすべてがためになり、楽しかった」と感想。大館高の谷内優月さんは「活動を通して地域の人が笑顔になってくれた。うれしく、来たかいがあった」と笑顔で振り返った。

活動のコーディネーターを務める高橋秀一さんは、「幅広い年代、団体の多くの市民から参加協力が得られ、現地の子どもたちの元気な顔も見られた」と喜んだ。本年度の訪問最終第4回は28日。

